

エジプト 南アフリカを抜きアフリカ最大のオレンジ輸出国に

[FreshFruitProtal](#) 2024年3月4日

天候不順と欧州委員会による低温処理の義務化は、昨年の南アフリカ産柑橘類の輸出に深刻な影響を与えた。[Federicitrus](#)(アルペンチン柑橘類協会)の分析によると、この不利な状況により、南アフリカの輸出業者らはアフリカ大陸最大の輸出国としての王座を失った。

米国農務省海外農業局(FAS)の12月19日付けの[報告書](#)によると、南アフリカの2024年のオレンジ出荷量は1%減少すると予測されている。輸出量は2%増加すると予想されるが、(港湾の非効率による)果実の品質劣化は輸出量に影響を与えている。

対照的にFASのカイロ事務所(エジプト)は、2023-24販売年度について、オレンジの生産量が3%増加すると予測している。さらに、エジプトの生鮮オレンジ輸出量は25%増加し、200万トンに達すると[報告](#)している。他方、南アフリカの輸出量についてFASは、137万トンと予測している。

FASのデータによると、2021-22年度の両国の生鮮オレンジ輸出量はともに約130万トンであった。

エジプトの収穫量の増加は、良好な環境条件、新たなオレンジ市場の開拓、及び農場の登録と生産の監視に優れたトレーサビリティシステムに起因している。

国際市場でのエジプト産オレンジの需要の高まりと、官民共同の取り組みの成功により、生産者は他の種類の果実よりもオレンジを栽培するようになった。

過去10年間、小規模生産者も商業的(大規模)農場も、価値の高い輸出市場への大量出荷を維持するために、クリーンな果実の生産に注力してきた。

オレンジはエジプトの主要な柑橘類作物であり、柑橘類の栽培面積全体の70%を占めている。バラディ、バレンシア、ネーブル、スイートオレンジは、エジプトで最も多く栽培されている品種である。

エジプト産生鮮オレンジの輸出先トップ10は、今後もオランダ、ロシア、サウジアラビア、インド、アラブ首長国連邦、スペイン、バングラデシュ、シリア、中国及び英国で変わらないと思われる。

南アフリカの柑橘類生産者協会(CGA)によると、南アフリカの柑橘類産業では、2023年にはハブ(主要集出荷施設)の出荷量が減少し、前年比1%未満の成長にとどまった。

CGAのジャスティン・チャドウィック代表はリリースで、同業界は果実を海外に販売するに際して複数の課題に直面していると述べている。

同代表は、国営電力会社「エスコム」のエネルギー危機による度重なる停電が、果樹園の灌漑と施肥、梱包及び低温貯蔵に影響を与えていることを指摘した。

さらに、6月の壊滅的な洪水は、主要産地の1つである西ケープ州の農場に影響を与え、推定5億ランド(2,460万ユーロ)以上の経済的損失を引き起こした。

チャドウィック氏は、これらの国内の混乱に加えて、南アフリカの輸出産業にとって最大の課題は、欧州委員会がヨーロッパの柑橘類農場へのフォールスコドリグモス(蛾の一種)の蔓延を防ぐために南アフリカに課した「低温処理の義務化であった」ことを改めて訴えた。